

令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞  
(岡山県知事賞)

「危機感を大切に」

岡山県立津山中学校 3年 小野 萌紗

私の住んでいる岡山県では、2018年に西日本豪雨による被害があった。私の住んでいる地域は大雨が降ったものの死者はでていなかった。しかしながら、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、死者数は200人を超えた。当時小学2年生だった私は、なんの危機感もなく他人事のように考えて過ごしていた。

2024年中学1年の正月、私は、旅行に行っていた友達と連絡を取り合っていた。すると友達が、「ニュース見て！」と突然メッセージを送ってきた。どうしたんだろうと思いテレビをつけると、あちこちで土砂崩れが起り家が飲み込まれている映像が目に入った。能登地震が発生した瞬間だった。真っ先に気にかかったのは石川県に近い県まで旅行に行っていた友達。今は連絡が取れていても後々何らかの災害に巻き込まれてしまうかもしれないと思い心配になった。実際私は、災害に知人が巻き込まれることやその危機がある状況を経験したことがなかったため、震源地からは離れていたものの能登地震はとても身近なものに感じた。

能登地震からしばらく経ち同年9月21日、能登半島を記録的な豪雨が襲った。この豪雨による死者は、災害関連死を含め19人に上るとされている。

なくなった人のなかには当時、今の私と同じ年齢だった女子中学生がいた。彼女は豪雨によって住宅ごと川に流され、10日間もの間行方がわからなくなっていたが、およそ170キロ離れた福井県の沖合で遺体で見つかった。

私はこのニュースを見たとき、年齢が近かったこともあり自分にも起こり得ることかもしれない、もしくは、家族や友達などの大切な人が同じように災害に巻き込まれてしまうかもしれないと再び感じ、怖くなった。

そこから私は、もしも自分の住んでいる地域で災害が起こったとき、どこに逃げるか、何を持っていくか、家族と離れているときどう連絡を取るかなどを真剣に考えるようになった。また、住んでいる地域だけでなく、旅行先での災害などにも備えておく必要があるのではないかと感じた。そのためには、天気予報を注意深く見ておくことや、ハザードマップを確認しておくことで、万が一旅行先で災害が発生した際の正しい判断や早期避難につながると私は考える。

自分の命を守ることはもちろん、大切な人の命を守るためには、「正しい知識」「早めの判断」「普段からの備え」を心に留めて生活するべきだ。災害が起こった際も、一人ではなく複数の人と声をかけ合って避難すること、避難の必要があるか迷ったときは「まだ大丈夫」と思わず速やかに安全な場所に行くことが重要だ。災害は、少しの迷いが命取りとなってしまう。普段から災害について備えておくことや危機感をもっておくことは、「当たり前」と多くの人が考えられるようになるべきだと私は思う。